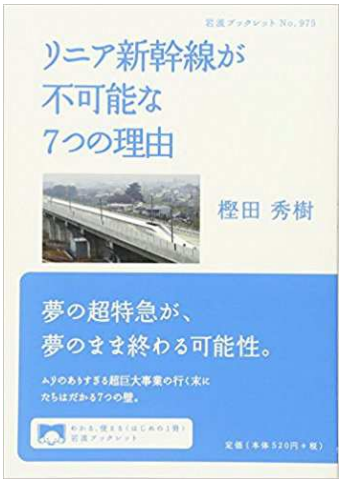
その本はそこに　読書案内 15　～権力をチェックすることがジャーナリズムの基本～

リニア新幹線が不可能な7つの理由 ❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖



■ジャーナリスト　樫田秀樹　（かしだひでき）

1959 年、北海道生まれ。各誌に環境問題、社会問題、市民運動、人物ルポなどを寄稿。著書に「悪夢の超特急リニア新幹線」など。この本は、会員の河合さんに教えていただき、取り上げました。

JR 東海という大スポンサーに、マスコミも静かです。現在は、談合問題に揺れるリニア計画。2016 年 11 月 1 日、長野県大鹿村で起工式。時速 500 キロで、2027 年に品川～名古屋間を 40 分で、2037 年には品川～新大阪間を 67 分でむすぶ。総工費約 9 兆円。リニア推進の理由は、東海道新幹線の経年劣化や大規模災害への備えとして、また三大都市圏の経済活性のため。

この本は、この超巨大事業、７つの課題として整理しています。

■難問１　膨大な残土 ❖❖

残土は廃棄物ではなく、資源。膨大な残土の活用先を決めずに着工。１日 930 台のダンプ、反対する住民。2014 年に事業認可されたものの、いまだにトンネル建設にはほとんど着工できないでいる。

■難問２　水涸れ

「水資源への影響は小さいと予測します」という JR 東海。1990 年から始まった実験線でも続発した水涸れ。

■難問３　住民立ち退き

ルートの 14%にあたる約 40 キロの地上部分。品川・東京間で約 5000 人（東京、神奈川、山梨、長野、静岡、岐阜、愛知）。収用を拒む集落、収容される集落。全国では個人で樹木を買い取って、開発を阻止する運動もある。

■難問４　乗客の安全確保

リニアは新幹線の３倍の電力を消費する。リニアそのものや高圧線の電磁波による健康被害の懸念。

運転について無人化されるリニアだが、住民説明で、「トンネルで緊急停止し、非常口が真冬の山間地の場合、乗客の誘導はどうなるのか」との質問に、「道具も用意するが、お客様同士で助け合っていただく」と回答。

■難問５　ウラン鉱床

岐阜県東濃地区。ウランを含む残土が肺がんを引き起こす。JR 東海は「ウランが出ないのが前提」としている。

■難問６　ずさんなアセス（事前影響評価）、住民の反対運動

説明会での資料はＡ４で２，３枚なのに、投影画像は数十枚。メモしきれないし撮影禁止。回答の引き延ばし。

■難問７　難工事と採算性

2007 年以来「国の支援は受けずに自己資金でリニアを建設する」と説明していた JR 東海だが、2016 年、財政投融資で３兆円（当面必要な金額）もの公的資金を活用すると、安倍首相が表明した。同日、JR 東海の柘植康英社長は「大変ありがたい」と言い、2016 年 10 月 26 日と 11 月 10 日、衆参両院の国土交通委員会で、財投資金を回すための、法改正を審議、両院委員会で即日可決、11 月の本会議でも可決。さっそく 11 月 29 日、支援機構は JR 東海へ 5000 億円を融資、以降 2017 年 1 月と 3 月に 5000 億円ずつ、5 月と 7 月に 7500 億円ずつ、計３兆円が投入。「無担保」で・・・。　また、樫田さんは、雑誌『週刊金曜日』にて記事をあげています。

山梨県総合政策部リニア環境未来都市推進室が、『リニアで変わるやまなしの姿』と題した小冊子漫画を約１５万部発行し、このうち約１０万部が小・中・高校に無料配布された。リニア開通での所要時間短縮による経済効果や人口増加だけが強調され、環境問題には一切触れていない。明らかに教育の中立性を侵している。

「子どもを巻き込むことだけは許されない」と山梨県の保護者は言います。　（黒野晶大）